

# 愛媛県砂防協会会長賞 中学生・作文

## 「みんなで協力して命をつなごう」

篠山中学校 一年 <sup>やまさき</sup>山崎 <sup>しほり</sup>史帆里

「炊けたあ！」

やっのご飯が炊けた瞬間、私は思わず声が出てしまいました。

これは、六月に行った防災学習会「炊き出し訓練」の時のことです。その日、私たちは地域や保護者の皆さん、小学生や先生たちと防災に関する学習をしていました。すると、緊急地震速報が流れました。急いで運動場に避難し、全員の無事を確認した後、校長先生が、「ただ今の地震により、土砂災害が起こり、篠南地区は孤立しました。家に帰ることもできません。全てのライフラインは立たれています。今いる皆さんで、ライフラインが復旧するまで助け合わなければいけません。」とおっしゃいました。

こうして、昼ごはんの炊き出し訓練が始まりました。私は母と小学五年生の家族の四人で五人分のご飯作りをしました。ただし、ライフラインが絶たれているので、グループには飲み水を含め、ペットボトルの水が五本しか支給されません。水が足りなくなったらどうしようと思い、先生に質問すると、「グループで話し合ってください。」としか言われませんでした。先生方も自分たちでご飯を炊くので、先生を頼るのは禁止なのだそうです。それぞれのグループでどんな方法を取るか話し合い、飯ごう、鍋、アルミ缶など学校にあるものの中から、私たちは鍋で炊くことにしました。なぜなら、災害時は大人数だし、鍋でご飯を炊いた経験がある人がいたからです。お米を洗って水加減を調節するのは簡単だと思いました。しかし、かまどを作るのに苦労しました。聞かないと誰も教えてくれません。周りを見て、他のグループと協力しながらブロックで壁を作り、木を組み合わせて空気の通り道を作りました。火が無事ついた時は感動しました。そして、みんなで協力してできたご飯は温かくて、おいしくて、心もポカポカしました。ふりかけとたくわんだけしかおかずはありませんでしたが、文句を言う人は誰もいませんでした。みんなで「おいしいね。」と話しながら食べるご飯はありがたいと思いました。

しかし、困ったことがありました。片付けの時、鍋のまわりが黒くなっていて汚れが落ちず、ペットボトルの水がどんどんなくなっていったのです。どうしようと思っていたら、アルミ缶でご飯を炊いたグループが「よかったらどうぞ。」と使わなかった水をくださいました。アルミ缶でご飯を炊いたグループは、そのままゴミとして捨てるので、水がほとんどいらなかったそうです。ライフラインが絶たれ、水がないとはこういうことか実感しました。そして、貴重な水を分ける心の温かさに気付きました。

私たちが住んでいる篠南地域は、緑豊かで自然がたくさんあって、みんな優しくとても素晴らしいところです。しかし、その篠南地域で最も恐れている災害が、土砂災害です。篠南地域は、土砂災害が起こると孤立してしまいます。なぜなら、篠南地域の主な道路は二本しかなくて、一度土砂災害が起こると道が分断され、町に出ることができなくなるからです。また、私が通っている中学校の体育館は指定避難場所ですが、運動場は土石流の土砂災害警戒地域になっています。体育館の前も急傾斜地土砂災害警戒地域となっています。もし、学校にいる間に土砂災害が起こったら、周りは土砂だらけになることでしょう。そして、道路が通行できるようになるまで自分たちの力で過ごせるようにならないといけません。

私はこの防災学習会を通じて、「普段から人と協力することが、災害に備える第一歩だ。」と感じました。今回の炊き出しが被災時だったら、私はパニックになっていたかもしれません。炊き出しも手伝わず、大人に任せっきりになるかもしれません。しかし、今は訓練で体験したので、ご飯を炊くための様々な方法が分かります。道具もどこにあるか知っているのも、みんなのために動けます。大人の方も自分たちが動けるのを知ってくれているので、信じて任せてくれると思います。自分たち中学生が地域のために働けば、みんなと助け合い生き抜くことができると思います。

最近、大雨が続き、線状降水帯が発生した後、冠水したり、土砂災害が起こったりしているニュースが続いています。家が全壊し、車が流されている映像や、孤立した集落が救助されている映像を目にします。そして、避難場所で不安や恐怖の中、過ごしている方々の姿を目にし、心が痛みます。しかし、この光景は、篠南地域でも起こり得ることです。だからこそ、被災しても、みんなと協力して不安な状態を取り除きたいです。

私は、篠南地域のためにみんなで協力し、乗り越えることを誓います。

(1890字)